

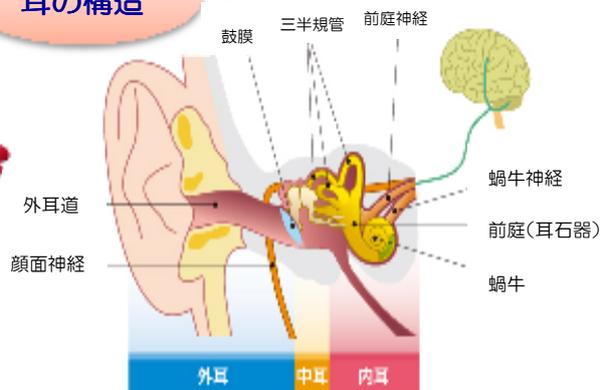
3月3日は、「耳の日」

～耳を大切にしましょう～

毎年3月3日は、『**耳の日**』です。「耳の日」とは、難聴と言語障害を持つ方々の悩みを少しでも解決したいという、社会福祉への願いから始められたもので、日本耳鼻咽喉科学会の提案により、昭和31年に制定されました。日本耳鼻咽喉科学会では毎年「耳の日」に、都道府県毎に、難聴で悩んでいる方々の相談や、耳の病気、耳の大切さへの理解を深める為の活動を行っています。

■「耳の聞こえ」に不安を感じていませんか？ - 難聴、めまいについて -

耳の構造



出典：一般社団法人 日本耳鼻咽喉科学会 HP

耳とは、音を聞く感覚器系で頭の左右1対にあり、**外耳・中耳・内耳**からなる聴覚器（**ちょうかくき**）です。内耳は聴覚器のみならず平衡感覚（へいこうかんかく）を感じる器官である為、全体をまとめて平衡聴覚器といえます。

耳は、耳の穴から鼓膜までの「**外耳**」、伝わってきた小さな音を鼓膜で振動させ、耳小骨（じしょうこつ）を経由して内耳へ伝える「**中耳**」、音を神経の信号に変換する蝸牛（かぎゅう）と三半規管・前庭（ぜんてい）耳石器（じせきき）からなる平衡器官がある「**内耳**」に分かれています。

難聴とは

音が聞こえにくくなることを**難聴（なんちょう）**と呼びますが、難聴の症状も、どの部位が障害されているかによって異なります。外耳・中耳の障害によって音が小さく聞こえる難聴が、「**伝音（でんおん）難聴**」です。蝸牛が障害されると音が聞こえない・音がひずむなどの症状がでます。これが「**内耳性（ないじせい）難聴**」です。内耳より奥の聞こえに関係する神経が原因となる「**後迷路性（こうめいろせい）難聴**」は、音が聞えるけれども、言葉が聞き取れないという特徴があります。「内耳性難聴」と「後迷路性難聴」をあわせて、「**感音（かんおん）難聴**」と呼びます。

めまいとは

めまいには様々な症状が含まれます。天井がぐるぐる回る「**回転性めまい**」や、頭がふらふらする「**動揺性めまい**」、また眼の前が真っ暗になる「**立ちくらみ**」等があります。内耳（ないじ）の病気や脳の病気、また緊急を要するものと、放置してもよいもの等、めまいを生じる病気には大変多くの種類があります。私達の身体には**姿勢のバランスを保つ機能**が備わっています。その機能をつかさどる場所の一つが、耳の中にある「**三半規管（さんはんきかん）と前庭（ぜんてい）耳石器（じせきき）**」です。これらの機能に異常をきたすとめまいが起きます。めまいを生じると、特殊な眼球の動き【**眼振（がんしん）**】や難聴を伴うことがあります。

耳の病気といっても原因や症状は様々です。異常を感じたら、耳鼻咽喉科を受診しましょう！